

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月1日
【四半期会計期間】	第114期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社小糸製作所
【英訳名】	KOITO MANUFACTURING CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大嶽 昌宏
【本店の所在の場所】	東京都港区高輪四丁目8番3号
【電話番号】	03(3443)7111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 山本 英男
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪四丁目8番3号
【電話番号】	03(3443)7111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 山本 英男
【縦覧に供する場所】	株式会社小糸製作所大阪支店 （大阪市淀川区西宮原一丁目5番45号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第113期 第2四半期 連結累計期間	第114期 第2四半期 連結累計期間	第113期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（百万円）	225,734	267,229	472,843
経常利益（百万円）	17,260	17,410	40,007
四半期（当期）純利益（百万円）	7,236	10,156	16,625
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	3,112	19,571	41,166
純資産額（百万円）	182,250	233,431	218,131
総資産額（百万円）	355,764	439,518	418,087
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	45.03	63.21	103.46
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期） 純利益金額（円）	-	-	-
自己資本比率（％）	45.59	46.49	45.38
営業活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	30,346	20,407	42,138
投資活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	24,952	21,024	41,947
財務活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	6,742	1,746	2,812
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 （百万円）	21,158	23,597	21,992

回次	第113期 第2四半期 連結会計期間	第114期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	26.81	30.12

（注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2．売上高には、消費税等は含んでおりません。

3．潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済情勢は、景気刺激策や円高是正、株価上昇等に伴い、輸出産業を主体に企業収益の改善が見られ緩やかながら回復基調で推移いたしました。世界においては、依然として欧州債務問題や中東情勢不安等があるものの、米国景気の回復、新興国の需要拡大などにより、低成長ながら堅調に推移いたしました。

自動車産業におきましては、国内は、昨年が震災復興需要やエコカー補助金等の影響により高水準であったため、生産台数は前年同期に比べ減少いたしました。海外では、欧州が需要減退により減産となるなか、北米や中国、インドネシア等新興国での需要拡大により、世界の自動車生産台数は前年同期に比べ増加いたしました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は、海外での自動車照明関連事業が増収となり、前年同期比18.4%増の2,672億円となりました。

セグメントの状況は、以下のとおりです。

#### 〔日本〕

自動車生産が、昨年の震災復興需要及びエコカー補助金等の影響により減産となったことから、売上高は前年同期比1.1%減の1,260億円となりました。

#### 〔北米〕

自動車需要の回復に伴う日本車の生産増加や、現地自動車メーカー向けの受注拡大等により、売上高は前年同期比48.7%増の422億円となりました。

#### 〔中国〕

自動車需要が増加するなか、現地自動車メーカー向けの受注拡大等により、売上高は前年同期比44.7%増の651億円となりました。

#### 〔アジア〕

タイ、インドネシアでの受注が拡大、生産も順調に推移し、売上高は前年同期比40.7%増の271億円となりました。

#### 〔欧州〕

欧州経済が依然停滞しているものの、域内自動車販売が若干持ち直したこと及び為替換算影響等により、売上高は前年同期比18.7%増の66億円となりました。

利益につきましては、北米・中国・アジアにおいて自動車増産や海外新工場の稼働が寄与するなど増収となりましたが、日本での減収が大きく影響し、営業利益は前年同期比6.9%減の163億円となりました。経常利益は円安に伴う為替差益の計上等により、前年同期比ほぼ横這いの174億円となりました。四半期純利益は前年同期に投資有価証券評価損を計上した影響などから、前年同期比40.3%増の101億円となりました。

当第2四半期末の資産につきましては、現金及び預金の増等により流動資産が増加したのに加え、海外生産増強に伴う新工場建設等の設備投資もあり、資産残高は前期末に比べ214億円増加の4,395億円となりました。

負債の残高は、支払手形及び買掛金の増、借入金の増等により、前期末に比べ61億円増加の2,060億円となりました。

純資産の残高は、四半期純利益により利益剰余金が増加したのに加え、円安、株価上昇等に伴うその他の包括利益累計額の増加もあり、前期末に比べ152億円増加の2,334億円となりました。

#### (2)キャッシュ・フローの分析

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益182億円、減価償却費101億円を主体に352億円となり、法人税等を支払った結果、204億円の資金を確保いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資170億円等を実施した結果、210億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入れを実施したことなどにより、17億円の収入となりました。

以上により、当第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ16億円増加の235億円となりました。

#### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務及び事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上してい

くことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様のご決定に委ねられるべきものであると考えています。

ただし、株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えています。

また、当社は、企業価値の拡大・最大化を実現するため、次の取組みを行っております。

- ( ) 自動車産業の世界最適生産の拡大に対応すべく、海外における開発・生産・販売部門を更に強化するなど、グローバル5極体制(日本・北米・欧州・中国・アジア)の充実を図る。
- ( ) お客様・市場ニーズを先取りした先端技術の開発と迅速な商品化を図り、タイムリーに魅力ある商品を提供する。
- ( ) 高品質・安全性を追求するとともに、環境保全及びコンプライアンス強化を推進する。
- ( ) 経営資源の確保と有効活用により、収益構造・企業体質の更なる強化を図る。

当該取組みを着実に実行することにより、当社の持つ経営資源を有効に活用すると共に、様々なステークホルダーとの良好な関係を維持・発展させ、当社及び当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の向上に資することができると考えております。なお、この取組みは、当社の企業価値を継続的かつ持続的に向上させるものとして策定されていることから、基本方針に沿っており、株主共同の利益を損なうものではなく、かつ当社役員の地位の維持を目的とするものではないと、取締役会は判断しております。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、13,195百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	320,000,000
計	320,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	160,789,436	160,789,436	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は 1,000株
計	160,789,436	160,789,436	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1 日~ 平成25年9月30日	-	160,789	-	14,270	-	17,107

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
トヨタ自動車(株)	愛知県豊田市トヨタ町1	32,158	20.00
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	6,380	3.97
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	6,239	3.88
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	5,979	3.72
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	5,442	3.38
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	5,154	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	4,437	2.76
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	東京都中央区月島4丁目16-13	4,417	2.75
第一生命保険(株)	東京都中央区晴海1丁目8-12	4,000	2.49
(株)デンソー	愛知県刈谷市昭和町1丁目-1	3,000	1.87
計	-	77,208	48.02

野村アセットマネジメント(株)からの平成25年6月7日付変更報告書により、平成25年5月31日現在で、以下の株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができておりません。

なお、当該変更報告書の内容は以下のとおりです。

氏名または名称	保有株式の数(株)	保有割合 (%)
野村アセットマネジメント(株)	8,155,000	5.07

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 93,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 160,423,000	160,423	-
単元未満株式	普通株式 273,436	-	-
発行済株式総数	160,789,436	-	-
総株主の議決権	-	160,423	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株証券保管振替機構名義の株式1,000株(議決権の数1個)が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(株)小糸製作所	東京都港区高輪四丁目8番3号	93,000	-	93,000	0.06
計	-	93,000	-	93,000	0.06

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、明治監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	76,485	91,356
受取手形及び売掛金	90,299	84,579
電子記録債権	6,820	6,323
有価証券	778	1,490
たな卸資産	39,540	44,587
繰延税金資産	3,370	3,402
未収入金	15,450	15,714
その他	18,440	21,348
貸倒引当金	12,846	13,398
流動資産合計	238,338	255,402
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	32,059	34,333
機械装置及び運搬具（純額）	30,570	37,089
工具、器具及び備品（純額）	9,786	12,281
土地	13,938	13,993
建設仮勘定	12,837	9,466
有形固定資産合計	99,193	107,165
<b>無形固定資産</b>	981	880
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	71,658	71,582
長期貸付金	56	41
繰延税金資産	5,882	2,996
その他	2,141	1,599
貸倒引当金	165	150
投資その他の資産合計	79,574	76,069
<b>固定資産合計</b>	179,749	184,115
<b>資産合計</b>	418,087	439,518

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	86,495	90,833
短期借入金	27,297	33,702
未払費用	18,663	21,226
未払法人税等	7,582	4,966
賞与引当金	4,408	4,421
製品保証引当金	1,800	1,800
課徴金引当金	3,428	-
その他	6,957	8,180
流動負債合計	156,633	165,130
固定負債		
長期借入金	2,800	3,422
退職給付引当金	30,120	30,612
役員退職慰労引当金	293	315
損害賠償引当金	7,960	4,098
環境対策引当金	253	243
繰延税金負債	-	549
その他	1,894	1,713
固定負債合計	43,322	40,957
負債合計	199,956	206,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,270	14,270
資本剰余金	17,108	17,108
利益剰余金	140,588	148,816
自己株式	78	81
株主資本合計	171,889	180,114
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,297	18,193
為替換算調整勘定	4,534	6,014
その他の包括利益累計額合計	17,831	24,208
少数株主持分	28,410	29,108
純資産合計	218,131	233,431
負債純資産合計	418,087	439,518

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	225,734	267,229
売上原価	190,576	230,309
売上総利益	35,158	36,920
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 17,628	<sup>1</sup> 20,604
営業利益	17,529	16,315
営業外収益		
受取利息	230	807
受取配当金	206	308
持分法による投資利益	0	0
為替差益	-	99
その他	773	478
営業外収益合計	1,210	1,694
営業外費用		
支払利息	286	381
為替差損	576	-
航空事業安全対策費	227	149
その他	388	68
営業外費用合計	1,479	599
経常利益	17,260	17,410
特別利益		
固定資産売却益	4	5
投資有価証券売却益	-	985
その他	1	20
特別利益合計	6	1,011
特別損失		
投資有価証券評価損	3,030	-
特別退職金	<sup>2</sup> 781	-
固定資産除売却損	94	179
たな卸資産評価損	18	-
たな卸資産廃棄損	7	11
その他	-	2
特別損失合計	3,931	192
税金等調整前四半期純利益	13,335	18,228
法人税、住民税及び事業税	6,851	5,603
法人税等調整額	1,442	103
法人税等合計	5,408	5,707
少数株主損益調整前四半期純利益	7,926	12,521
少数株主利益	689	2,364
四半期純利益	7,236	10,156

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主利益	689	2,364
少数株主損益調整前四半期純利益	7,926	12,521
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,410	4,849
為替換算調整勘定	3,403	2,200
その他の包括利益合計	4,813	7,050
四半期包括利益	3,112	19,571
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,529	16,533
少数株主に係る四半期包括利益	416	3,037

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	13,335	18,228
減価償却費	8,468	10,163
持分法による投資損益(は益)	0	0
貸倒引当金の増減額(は減少)	456	521
退職給付引当金の増減額(は減少)	122	494
賞与引当金の増減額(は減少)	292	16
受取利息及び受取配当金	436	1,115
支払利息	286	381
有価証券及び投資有価証券売却損益(は益)	-	983
有価証券及び投資有価証券評価損益(は益)	3,021	-
有形固定資産売却損益(は益)	90	173
売上債権の増減額(は増加)	14,709	8,565
たな卸資産の増減額(は増加)	254	3,984
その他の流動資産の増減額(は増加)	3,515	2,743
仕入債務の増減額(は減少)	6,265	2,242
未払費用の増減額(は減少)	2,908	2,435
役員賞与の支給額	317	-
その他	3,669	837
小計	36,249	35,230
利息及び配当金の受取額	436	1,115
利息の支払額	286	381
損害賠償金の支払額	604	3,861
課徴金の支払額	-	3,428
法人税等の支払額	5,449	8,268
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,346	20,407
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	29,567	41,961
定期預金の払戻による収入	16,457	27,947
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	8	8
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	3	9,211
有形固定資産の取得による支出	11,588	17,021
有形固定資産の売却による収入	25	7
貸付けによる支出	8	5
貸付金の回収による収入	26	18
その他	292	788
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,952	21,024

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,297	5,679
長期借入れによる収入	838	1,390
長期借入金の返済による支出	481	476
自己株式の取得による支出	0	3
配当金の支払額	1,606	1,928
少数株主への配当金の支払額	2,196	2,916
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,742	1,746
現金及び現金同等物に係る換算差額	711	476
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,059	1,605
現金及び現金同等物の期首残高	23,217	21,992
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,158	23,597

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
製品	20,152百万円	22,913百万円
仕掛品	4,471	4,959
原材料及び貯蔵品	14,916	16,714

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1)販売費		
従業員給与手当	2,084百万円	2,135百万円
運賃運送費	1,616	1,749
荷造梱包費	860	931
退職給付費用	213	187
(2)一般管理費		
従業員給与手当	3,309百万円	3,683百万円
福利厚生費	1,049	1,321
退職給付費用	577	266

2 連結子会社であるKIホールディングス(株)の希望退職実施に伴う退職金及び再就職支援費等であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	70,115百万円	91,356百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金等	50,388	69,249
有価証券のうち現金同等物	1,431	1,490
現金及び現金同等物	21,158	23,597



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,606	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月26日 取締役会	普通株式	1,606	10	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,928	12	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月29日 取締役会	普通株式	1,928	12	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米	中国	アジア	欧州	合計	調整額 (注)1	四半期 連結 財務諸 表 計上 額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	127,398	28,424	45,001	19,298	5,612	225,734	-	225,734
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57,488	6	625	2,075	6,124	66,320	(66,320)	-
計	184,886	28,431	45,626	21,373	11,737	292,055	(66,320)	225,734
セグメント利益又は損失 ( )	13,506	19	2,830	1,915	600	17,632	(102)	17,529

(注)1. セグメント利益の調整額 102百万円には、セグメント間取引消去1,992百万円及び配賦不能営業費用2,095百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、親会社本社の総務・経理部門等の管理部門に関わる費用であります。

2. 日本、中国以外の各セグメントに属する国又は地域の内訳は次の通りであります。

(1)北米 ...米国

(2)アジア...タイ、インドネシア、台湾、インド

(3)欧州 ...ベルギー、英国、チェコ

3. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米	中国	アジア	欧州	合計	調整額 (注)1	四半期 連結 財務諸 表 計上 額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	126,015	42,265	65,132	27,155	6,659	267,229	-	267,229
セグメント間の内部売上高 又は振替高	56,042	-	1,378	2,143	7,846	67,412	(67,412)	-
計	182,058	42,265	66,511	29,299	14,506	334,641	(67,412)	267,229
セグメント利益又は損失 ( )	10,461	224	3,154	3,069	335	16,125	189	16,315

(注)1. セグメント利益の調整額189百万円には、セグメント間取引消去2,246百万円及び配賦不能営業費用2,056百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、親会社本社の総務・経理部門等の管理部門に関わる費用であります。

2. 日本、中国以外の各セグメントに属する国又は地域の内訳は次の通りであります。

(1)北米 ...米国、メキシコ

(2)アジア...タイ、インドネシア、台湾、インド

(3)欧州 ...ベルギー、英国、チェコ

3. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	45円3銭	63円21銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	7,236	10,156
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	7,236	10,156
普通株式の期中平均株式数(千株)	160,698	160,697

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

(1) 平成25年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・1,928百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・平成25年12月5日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

### (2) 訴訟

- ・連結子会社であるKIホールディングス㈱は、平成23年12月9日付で、Thai Airways International Public Company Limitedより、損害賠償請求訴訟の提起を受けており、平成24年10月19日付で当該訴訟の請求の趣旨の変更の申立がありました。当該訴訟は、航空機シートの納入義務の債務不履行及び品質保証違反等に基づく損害賠償請求を内容とするものであり、英国高等法院(High Court of Justice)に係属中です。
- ・連結子会社であるKIホールディングス㈱は、平成25年4月26日付で、Virgin Atlantic Airways Limitedより、損害賠償請求訴訟の提起を受けております。当該訴訟は、航空機シートが契約上定められた仕様及び航空当局が定める基準に合致していなかったこと等による契約違反及び不法行為を理由とする損害賠償請求を内容とするものであり、英国高等法院(High Court of Justice)に係属中です。
- ・当社及び連結子会社であるノースアメリカンライティングインクは、平成25年5月1日付で、SHERIDAN CHEVROLET CADILLAC LTD.他より、自動車用ランプについて調整行為を行ったとして、損害賠償請求訴訟の提起を受けております。当該訴訟は、カナダ国オンタリオ州上位裁判所に係属中ですが、当社は適切に対処し、正当性があることを主張していく所存であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月1日

株式会社小糸製作所

取締役会 御中

### 明治監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 芳井 誠 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 笹山 淳  
印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 二階堂 博文  
印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社小糸製作所の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社小糸製作所及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。